令和６年度第３回山形県産業構造審議会における主な意見等

日時：令和７年２月 13 日（木）
15：15 ～ 16：40
場所：山形県庁 1001 会議室

〇審議事項
次期山形県産業振興ビジョンについて（最終案の検討等）

〇審議経過
上記について事務局から説明し、各委員から、次期山形県産業振興ビジョン最終案に対する意見等を聴取した。

＜各委員の意見要旨＞　※発言順

【板垣委員】
次期ビジョン最終案を見ると、大変考え抜かれた言葉が使われており、ＫＰＩも明確で、行動計画が立てやすくなったと感じる。災害・危機に強い産業基盤の構築について、以前も話したことがあるが、地元山形県は東京に依存している。いつ大規模災害があるか分からず、その際の運送や輸送ルートに対する影響や救援策についての議論が不足しているように思う。そのため、ワーキンググループなどを設けて考えるべきだと思う。
また、リスキリング教育は非常に重要で、企業にとっても必要であり、既存の高等教育機関で夕方や週末に学べる仕組みがあるとありがたい。
それから、最近、ディベート教育が必要だと考えている。ＳＮＳの普及により、意見を言った相手を匿名で攻撃するというような社会的風潮が世界的に発生し、自分の意見を堂々と表明することが難しくなっている若者たちのためにも、ディベートという形式をとることによって、あえて反対側、あえて肯定側に立って、ルール上そうなったからそうするんだということにすれば、攻撃されないわけなので、そこで若いうちから議論をしていくなど、教育現場で議論することの意識付けを行っていくことが重要だと感じる。
具体的には「若者は県外に出るべきである、是か非か」というテーマで議論を行うことで、若者はあえて反対側や肯定側になり、攻撃されずに意見を述べることができる。こうした若いうちからの議論は大切だと思う。さらに、多面的な物の見方ができるように育成することも重要だと考える。
このビジョンにおいて「国内外で価値を創出」という言葉の採用は素晴らしいと思う。自分も企業人として、このビジョンに基づいて様々な取組みを進めていきたいと考えている。以上が私の意見である。

【後藤委員】
私は産業構造審議会の委員として活動し、多くのアドバイスを取り入れていただけたことを光栄に思っている。皆様の次期ビジョン最終案の取りまとめに対し、心から感謝している。私の専門はリスキリングで、これは産業構造の転換や競争力の強化に向けた重要な要素である。柱３（１）にリスキ

リングを取り上げていただいたが、ここから計画の中で具体的にどのような取組みの内容を作るかが重要だと考えている。

特に、柱２や柱３、その他の分野ともリスキリングは密接に関連しており、科学技術の振興や働き方改革、さらには「地域資源のリブランディングとグローバル展開の拡大」といった取組みとも深く関連している。重要なポイントは、計画の実現に向けて、担っていく人材を実際に育成し、一緒に働く仲間を育てていくことが、これから具体的な施策を作る上で求められていくと思う。

【鈴木委員】

ちょっと明るい未来を感じる産業振興ビジョン最終案にしていただき感謝する。私は着物の仕事をしているが、仕事をしていく中で、人口減少でもちろん着物を着る人が減っている。この状況の中で、フランスなど海外進出を勧められることがとても多くなったが、具体的にどうしたらいいのか分からなかった。委員の方々と話しても同じ思いだったが、今回のビジョンに「グローバル展開の拡大」という言葉が盛り込まれたことで、今まで挑戦したいと思っていてもできなかった方々にもこの考え方が広がることを期待する。私も様々な問題はあっても、この取組みの中に入ってやっていきたいと思う。

【八鍬委員】

これまでの５年間の振り返りでは、SWOT 分析を通じて、何ができたか、何ができなかったかが一定程度見えているのだろうと思うのだが、その後の重点的取組み等々について、11 ページ以降には未来の姿の実現に向けた施策展開の方向性が示されており、大きく３つの柱に分かれているが、いくつかの懸念点がある。特に 31 ページの目標指標では、主要目標が設定されているものの、それを達成するための下位の目標やアクションとの関連が分かりづらく、上位目標が下位目標の積み上げによって実際に達成できるのかが不明確である。したがって、施策の展開方向は合っているとは思うが、下位の目標値を積み上げていった結果として上位目標が達成できるのかどうかが、下位目標の指標項目及び目標数値からはよく分からない。つまり、自分としては、下位目標の数値目標や指標項目の過不足についてはこの資料からは推し量ることができないと感じている。

また、34 ページに記載された５年間のロードマップも同じことで、具体的な施策内容の記載が不足している印象を受ける。例えば、「スタートアップへの支援の充実」という重点的取組みの推進期間を示す記載があるが、５年間で実施していく内容については、もっと期間を区切って細分化したうえで各々実施する内容を具体的に記載しないと、目指す未来の姿である「多様な人財が活躍し、国内外で価値を創出し、成長し続ける産業社会」の実現につなげていくための道筋が見えてこない。

また、県として人口増加や財政の健全化を目指すためには、特定技能を有する外国人労働者の受け入れも重要であるが、中小企業にとっては受け入れに当たっての厳しい審査基準があるため、外国人労働者を受け入れたくても受け入れられなくなる可能性がある。労働力の確保については、賃金水準の相対的な劣後により、地方はさらに難しい。現状打破に向けては、これから５年間が施策展開において大事な時期になると思われるので、ビジョンに掲げた施策の効果的な推進という観点から、目標指標について、上位目標と下位目標のつながりの明確化を検討した方がよいと思う。

また、県として観光都市を目指すのであれば、世界的に有名なホテルグループとの提携を含め、いわゆる遊べる場の創出など、かなり大胆な戦略も必要であり、もっと広い視野に立って、中央官庁をも巻き込んで、大変難しい挑戦を行っていく必要があるのではないかと個人的には考えている。

【浅野委員】

学生や企業の若手社員と関わる中で、毎年変わっていく若者の動向や傾向に対し、５年後を計画していくことの難しさを感じている。そんな中、次期産業振興ビジョン最終案について、ブラッシュアップをしていただき感謝している。スローガンである「挑戦」よりも「防止策」ということになってしまうかもしれないが、多様な人材が活躍する場について、県外からのUIターン潜在層に対する支援に加え、今、県内で働く若者に対する支援が強化されることを願う。

若手社員たちの中には、スキルアップに意欲を持っている若者たちが一定数おり、この層に対しては、企業のリスキリング支援と同時に、個人のリカレント教育の支援と、そのスキルを活かせる場が必要。一方、現在の自分のキャリアに悩んでいる若者も多く、目標指標②の柱３の（２）の２６に記載のある「職場環境改善アドバイザー派遣」のように、個人のキャリアをサポートしてくれるような存在が必要だと感じている。特に、山形でキャリアを選択してくれている若者に対し、悩みを聞くだけでなく、労いと承認を持って応援できる仕組みが欲しい。

ＳＮＳで簡単に情報が得られる現在、その影響で都会への憧れが強まり、それを行動に移しやすい若者が多い現状である。「若者就職支援センター」がその役割とのことだが、認知度もなく、この名称に対しての抵抗感もあり、相談に行きづらいようである。若者も誰でも利用しやすくなる施設として、プラスの成長をイメージさせるような名称の相談窓口を設けていただけるとありがたい。そんな現在、山形でキャリアを築く大切な人財を含めた、多様な人材が活躍できる場であって欲しいと願う。

【武田委員】

会場の委員の皆様と浅野委員の意見に共感した。次期ビジョン最終案のまとめに対し感謝の意を表したい。私が次期ビジョン最終案から確認した３つのキーワードは「成長し続けられる」「チャンスがある」「評価される」である。これらは産業全体、企業あるいは経営者はもちろんだが、労働者である多様な人材も含めて、この３つのキーワードが思い浮かんだ。

１つ目の「成長し続けられる」という点に関しては、何をリスキリングするのかというその内容が戦略に深く関わるところであるので、県全体で様々な高等教育機関などと連携した取組みが求められ、横の繋がりや役割分担が重要だと感じた。このビジョンを進めていくためには、どんなリスキリングが求められているのかについて、さらに１歩具体的になっているといいと思った。リスキリングの方法としては、特定の産業の中だけのリスキリングということではなく、金融機関をはじめとした、業種を越えて一体的に学び合えるようなリスキリングの場を作っていくことが重要だと思う。

次に、「チャンスがある」という点では、やはり若者のＵターンが大事であると思う。そのまま就職する人たちだけでなく、一旦他の地域で就職後、そこで得た経験やスキルを持ち帰ることで、地域の活性化に寄与することができるので、戻れる環境づくりを積極的に行うことが重要であると考える。加えて、Ｉターンも重要であり、他県から山形に移住してくる人々にもチャンスを提供できる土壌を整えるべきだと思う。

最後に、「評価される」という点について、山形県は賃金が他県に比べて高くない状況にあり、他県よりも平均賃金を高くすることは難しいと思う。しかし、例えば、同一労働同一賃金が他の地域よりも進展している等といった指標が出てくると、外国人労働者や女性、高齢者といった多様な人材から、山形はフェアでいい地域だというように評価してもらうことができ、働く場として選んでもらえるではないかと感じた。

【綱川委員】

次期ビジョン最終案については、前回の議論を踏まえ、ブラッシュアップされ、重視されるポイントや施策も明確にまとめられており素晴らしいと感じた。より実効性を高めるために２点提案したい。

まず一つ目、共創を促進する場づくりについて、施策の中には、「イノベーションと新ビジネスの創出促進」の中に、交流連携できるプラットフォームの構築を盛り込んでおり、また目標指標でも企業同士の情報交換や技術交流の場の創出件数という指標を新たに設定していることから、共創の場づくりを重要視しているものとお見受けする。より効果を上げるためには、その場所に対する期待感を醸成することが重要と考える。その上で２つ意見を述べる。一つ目は、開かれたコミュニティとして県内外に認知される工夫である。そのためには、例えば、覚えやすいネーミングも重要かもしれない。その上で、スタートアップや新規創業、新事業の創出、共創であれば、まずはそこに行ってみるとよいと認知されるような開かれた雰囲気づくりと発信が重要だと考えている。場づくりの二つ目は、成功事例を早期に生み出す取組みの可能性である。例えば、県が選定するスタートアップの認定制度などがあってもよいと思う。通常の支援とは別に、認定したスタートアップ、新規事業への集中支援を行い、早期に成果に繋げることで、その成功がコミュニティプラットフォームのシンボルとなり、さらに多くの人や企業が集まる好循環を生み、関連施策へも波及することが期待できると思う。

大きな二つ目の意見として、このビジョンに基づいた取組みの発信に関してだが、これから 10 年間の挑戦を県内外の多くの人に知ってもらい、その挑戦を応援してもらうことが重要である。人口減少や人手不足など厳しい状況だからこそ挑戦しようとする取組みには共感が集まりやすく、連携が促進されると考えられる。例えば、産業人材育成プログラムの強化は全国的に注目度の高い課題への挑戦であり、積極的な発信により新しいソリューションを持つ企業の誘致や連携にも繋がると考えており、知事や担当部署、地元企業が連携して首都圏でスピーチの機会を持ったり、首都圏の企業や人材を巻き込んだプログラムを作るなど、財政的負担が少なくても実現できることは多いと考える。

今回のビジョン概要を読むと、未来への期待感が高まる。同じ思いを持つ方々も多いと思うので、山形県のミッション実現のために協力できることがあれば嬉しいと感じている。

【内藤委員】

次期ビジョン最終案について、きれいにまとめていただいたと思う。特に、施策展開の柱として柱３を入れたことは、非常に良い判断だと感じている。多くの企業が抱える採用問題を通じて、こうした取組みが有効であると実感しているところである。

しかしながら、ブランディングに関する部分については少し懸念がある。地域資源とリブランディングについてあまり理解できていないのではないかという感覚があったのでそこをもう一度しっかりした方がいいのではないかと思った。

具体的には「地域資源のリブランディングとグローバル展開の拡大」に関する目標指標案が、リブランディングとの結びつきが薄い印象を受ける。具体的に言うと、目標指標案の中で「山形ファンクラブ会員数」や「アンテナショップの売上高」が挙げられているが、地域資源というものを県産品だけだと捉えているのではないかと感じられるが、実は山形の地域資源はすごく広く、自然資源、祭り、伝統工芸の資源、農林水産、伝統技術、ものづくり、産業施設、町おこし、地域プロジェクトなどが入ってくると思う。

リブランディングの目標指標数ということで、例えば歴史文化の資源だとしたらインバウンドの観光客数、産業・商業を資源とするならば、企業とのコラボ案件数、生活やコミュニティ資源など町おこし・地域プロジェクトをリブランディングして指標を取るのであれば、移住定住者数や空き家活用件数などが出てくると思われる。

リブランディングについて、何を新しくするのか、資源のどの部分をどう新しくするのか、何のために新しくするのかについて、もう少し明確にする必要があると思う。例えば、自分の住む地域で言えば、歴史文化として新庄まつりがあり、それを今後リブランディングしていくのであれば、例えばＡＲやＶＲなどのデジタル技術とうまくコラボレーションさせて、新たな価値を見出すなど、リブランディングしていけるのではないかと思ったので、このリブランディングの部分の指標が県産品だけになってしまっていることが少し気になった。

とはいえ、ブランドというものは人であり、人がブランドに与える影響はすごく重要だと思っている。地域資源それぞれに人が関わっており、それに関わった人たちの思いやストーリーなどに、しっかり山形らしさを加えて発信していくことが非常に大事だと思う。

【西谷委員】

事業承継者、経営者、そして母という３つの立場からお話しさせていただく。まず、素晴らしい産業振興ビジョン最終案にまとめてくれたことに感謝している。特に「共創と挑戦で未来を切り拓く」というスローガンに感銘を受けており、この挑戦という言葉が非常に響く。全国の企業と取引をしている中で、山形が保守的であるという意見を多く耳にするので、挑戦を掲げてくれたことに感謝し、この挑戦できる環境を積極的に整えていっていただけることを期待している。

挑戦するためには安定した環境が重要だと考える。９年前に山形に戻った際には、新たなビジネスやスタートアップなど、新しい企業へのサポートがあったものの、歴史を受け継いできた企業への支援が不足しているように感じた。この度の提案の中で、中小企業への経営力強化や事業承継の支援が含まれていること、特に中核企業の掘り起こしという表現がとても気に入っている。内藤委員の意見にも共鳴し、これまで会社が築いてきた資源にプラスアルファのエッセンスを加えて新しい事業を行っているが、アイディアを経営の地域資源の一つと捉える視点も大切だと思う。

山形の魅力には果物や米など県産品があるが、古き良きものに新しいエッセンスを加えてアイディアを紡いでいるというところもあるので、ぜひアイディアも資源の一つとして捉えていただきたいと思う。

また、母親としては、挑戦するために子育てを支えてくれる環境が必要だと考えている。一人では限界があるため、周囲の理解や休みやすい環境が重要であり、その点も考慮していただいたことに感謝している。

【吉野委員】

私は地域コミュニティを運営し、産業のソーシャルイノベーションモデル創出事業に携わってきた。山形県の幸福度を上げる活動も行い、女性として県内企業の代表として意見を共有したい。次期ビジョン最終案については、政策内容の更新をしてもらったことに感謝した上で、特に中小企業への支援と女性の地域での活躍の２点について考えを述べたい。

以前、中学生と対話する機会があったが、その際、女子生徒から「女性でも強く生きていけますよね」と言われ、地域での女性活躍に対する不安を感じた。彼女たちは地域の中で劣等感を抱えており、地域社会における固定観念が強いことが影響していると感じる。また、調査によると、山形で働きたいと思っている若者が多いが、地域性や組織の体質が山形を選択することを妨げている現実がある。

旧体制から中小企業等が変革できない理由は、変えたいが変えられない状況や、企業同士が連携して新しい挑戦をする環境や機運が不足しているからだと感じた。お金だけではマインドは変わらず、山形県内でもこういう挑戦ができるということを広く認知していくことが重要だと思う。

地域の経営者に新しい挑戦ができる場は既に設けられてはいるが、さらにそれを広げていくような取組みやそれが経営者にどのようにプラスになっていくのかなどが広く伝わっていき、その地域の経営者のマインドが変わっていき、そこに参加するようになっていけばよいと思う。

働く人々にとっても、新しい活躍の場ができたり、キャリアアップにしても単に技術とか、資格が取れることだけではなくて自分のアイディアを実際に採用してもらって失敗してもいいから挑戦できる場のようなところが与えられるとやりがいを感じて、ただのライスワークのようなものではなく、自分が山形県内で生きていくことが楽しい、そして仕事の中でも挑戦をさせてもらえて、新しい価値を県内でも生み出したという感覚が一つでもあると、さらに女性・若者の定着につながるのではないかと思う。

また、オンラインで会議に参加できる環境があることに感謝している。これは身体的、物理的、距離的など様々なハードルを持つ人に多様な働き方を可能にするＤＸの利点だと実感している。そのため、ＤＸ推進が多様な人材を確保するために重要だと考えている。

【長谷川会長】

私は山形県の総合政策審議会の委員も務めている。そこで述べたことにも繋がるが、現在の重要課題を三つ挙げたい。

一つ目は自然災害の頻発・激甚化で、特に災害復旧が喫緊の課題だと考えている。行政には産業基盤を守る役割が求められており、危機に強い産業の構築が必要であり、競争力を高めていただきたい。

二つ目は人口減少への対応で、構造的な問題を解決する明確な方法は見つかっていないが、多様な人材の就労促進が必要である。特に外国人労働者を活用することが重要だと感じている。

三つ目は産業面の課題で、特に半導体の需給不安定さは、山形の隣の宮城県の問題にもなってきており、この問題への対応を考えていく必要があると思う。加えて、私の専門性から、金利のある世界での情報力の重要性も感じており、県とともにこの点を検討していきたいと考えている。